

事業検証シート

基本目標番号	8	施策番号	29	基本事業番号	3	計画番号	144
事業名	広報紙等の充実					区分	継続
目的	広報紙などの様々な広報媒体を活用し、市政情報を迅速かつ分かりやすく発信することにより、市民が自ら進んで市政やまちづくりに参画できる環境を整備する。						
手段	市の広報紙「広報とわだ」を毎月1回定期発行するとともに、市ホームページやSNS等の活用によりタイムリーな情報を市民へ発信する。						
事業開始年度	平成17	年度		事業終了年度		年度	
成果指標				現状値の推移			目標値
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
「広報とわだ」の紙面が分かりやすいと感じる人の割合				48.6%	49.3%	40.8%	50.0%以上
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
事業費 (単位:千円)	37,897		39,951		38,041		
備考							
事業実績	実施内容						
	・広報とわだの主要ページをカラーにするなど、見やすく分かりやすい紙面づくりに努めた。 ・より多くの市民及び県内外の人へ情報提供できる体制を整えるため、スマートフォンで「広報とわだ」を簡単に閲覧できるアプリ「マチイロ」や「わが街事典」、「カタログポケット」に掲載した。 ・市ホームページやブログ・フェイスブックなどSNSを活用して、タイムリーな情報の発信を行った。						
	事業実績(成果指標以外)			令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	ブログ・フェイスブックを活用した情報発信			116	129	119	
総括評価	達成状況	おおむね達成					
	・広報とわだをより多くの人に発信するため、令和4年5月号から多言語化・読み上げなどの機能のあるスマートフォンアプリ「カタログポケット」を導入した。 ・お知らせ欄で使用する見出しフォントやその他の催しページのレイアウトを変更するなど、より見やすい紙面づくりのための工夫を行った。 ・市の発信する情報の周知度を高めたり、市民が求める情報をより得やすい形で発信するため、各記事にQRコードを掲載するなど、メディアミックスやDXに取り組んだ。 ・ブログやSNSを活用し、情報をデジタル配信することで、即時性のある情報発信に取り組んだ。 ※令和5年度は広報とわだの記事において詳細情報のQRコード化が進み、回答者に占める高齢者の割合が高いアンケートに基づく成果指標は40.8%と前年度に比べ低下した。 一方、広報とわだ1月号の企画において実施した、若年層の回答割合が比較的高いアンケート調査では、紙面が分かりやすいと感じた人の割合は56%となっており、アプリ導入やQRコード化などデジタル化の取組は、若年層の利便性や満足度の向上につながっているものと推察する。						
今後の方向性	改善して継続						
理由	デジタルで配信される情報に慣れた比較的若い世代と、紙媒体の情報が必要な高齢の世代に幅広く情報を提供しなければならないため。また、デジタルの配信方法の多様化が進み、各世代ごとで利用者に偏りがみられることなどを踏まえ、多様なメディアを組み合わせ補完し合いながらより多くの市民に情報を伝えることに取り組んでいかなければならないため。						
重点化内容 または 改善内容	・今後も「広報とわだ」の読みやすさの向上を図り、紙面で使用する記号やフォントの検討を進める。 ・今後もスマートフォンアプリやSNSでの情報のデジタル配信を継続し、広報紙とデジタル配信の連携を図り、市の情報の認知度の向上に努める。						

令和6年8月7日（水）
令和6年度第2回外部評価委員会

広報紙等の充実

総務部 総務課

目次

1. 目的
2. 手段・取組
 - (1)広報とわだ
 - (2)SNS等の活用
 - (3)クロスメディア化の推進
3. 事前質問への回答

1. 目的

広報紙などの様々な広報媒体を活用し、市政情報を迅速かつ分かりやすく発信することにより、市民が自ら進んで市政やまちづくりに参画できる環境を整備する。

2. 手段・取り組み

市の広報紙「広報とわだ」を毎月1回定期発行するとともに、市ホームページやSNS等の活用によりタイムリーな情報を市民へ発信する。

2-(1)「広報とわだ」

広報とわだは、「市の行政一般に関する必要な事項を市民に周知させるため」に発行するもので、次の二つの柱を基本としている。

- ・ 市民と行政をつなぐものとして、広報媒体の柱とする
- ・ 政策的な広報を主体とする

■ 広報発行から配布までの流れ(発行月を当月とする)

1. 前々月の末日 記事の掲載依頼の締め切り
2. 前月第1週目 掲載依頼をもとに掲載案を作成
3. 前月第2週目 総務課内で校正し、担当課へ掲載案の確認を依頼
4. 前月第3週目 記事の最終校正を行い、入稿、決裁を行う
5. 前月第4週目 業者が印刷製本し、広報とわだが生産される
6. 当月1日の2日前 広報配布 (手順:市→町内会等→各戸)

2-(1)「広報とわだ」

取組 1 市民が読みやすい表現の追求 表記方法の見直し

市民が読みやすい表現などを検討し、随時改善を図っている。

◆これまでに実施された見直しの例

- 平成24年…表紙や特集記事などにカラー（4色）を導入
- 令和2年…それまで縦書きと横書きが混在していた紙面を横書きに統一。これにともない、右綴じだったものを左綴じへ

◆令和4年度以降の見直しの例

- 「お知らせ」の「とき」「ところ」などの項目のフォントをそれまでより太いフォント（小塚ゴシックM）に改めた
- 電話番号の表記の見直し
 - ～令和4年6月 ㊤5111 …縦書きの名残
 - ～令和5年4月 23-5111 …横書きで読みやすい表記に修正
 - 現在 0176-23-5111 …スマートフォン等で電話を掛ける際に必要であるため、市外局番を明記

2-(1)「広報とわだ」

取組2 幅広い年代の市民の声を集める 広報とわだブラッシュアップ事業

◆事業の背景

例年、町内会長に対し「広報アンケート」を実施しているが、回答者の年齢などに偏りがあるので、幅広い意見を求める。

◆事業の目的

若い世代や現役世代の市民からも幅広く意見や感想を求めることを目的とする。

◆実施方法

広報とわだ1月号に「お年玉付きクイズ」を掲載し、クイズとアンケートに答えた市民にお年玉をプレゼントする。

2-(1)「広報とわだ」

取組2 幅広い年代の市民の声を集める 広報とわだブラッシュアップ事業

◆令和5年度事業「広報とわだお年玉・子ども議会コラボ企画」

- ・ 「とわだ子ども議会」からの「子どもにも広報紙を読んでもらうため『十和田市豆知識クイズ』を広報紙に掲載してはどうか」という提案を一部採用。
- ・ 市内の小学校14校から募った『十和田市豆知識クイズ』『ウチの学校じまん』をすごろくゲームにして掲載。

◆実績

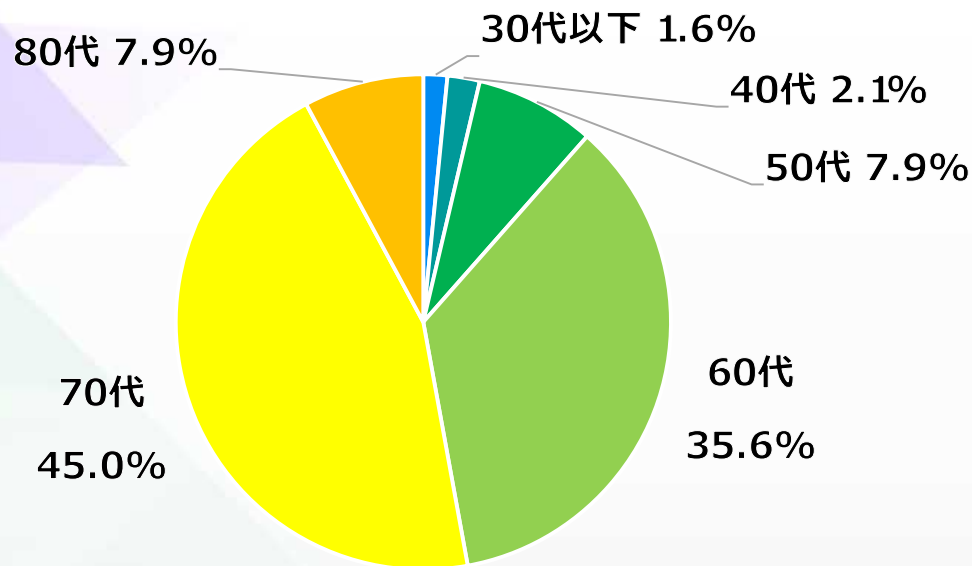
- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| ・ 回答方法 | 電子申請システムまたははがき |
| ・ 応募者数 | 57名 |
| ・ プレゼント当選 | アンケートとクイズに答えた市民から抽選で25名（図書カード2,000円分） |

2-(1)「広報とわだ」

取組2 幅広い年代の市民の声を集める 広報とわだブラッシュアップ事業

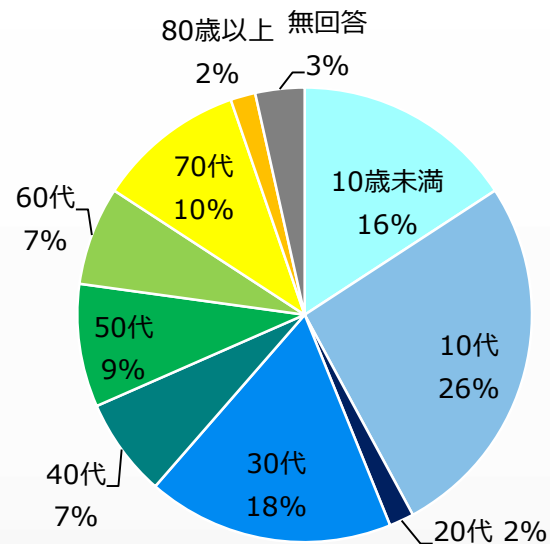
アンケート調査比較 【回答者の年代構成】

■町内会長対象



60代・70代の回答者が80%超

■お年玉企画



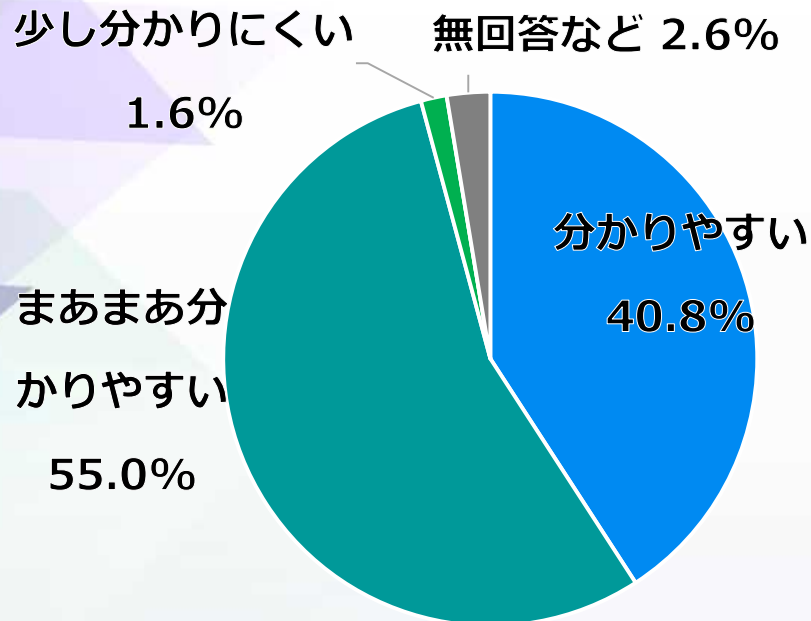
子どもから大人まで幅広い年代

2-(1)「広報とわだ」

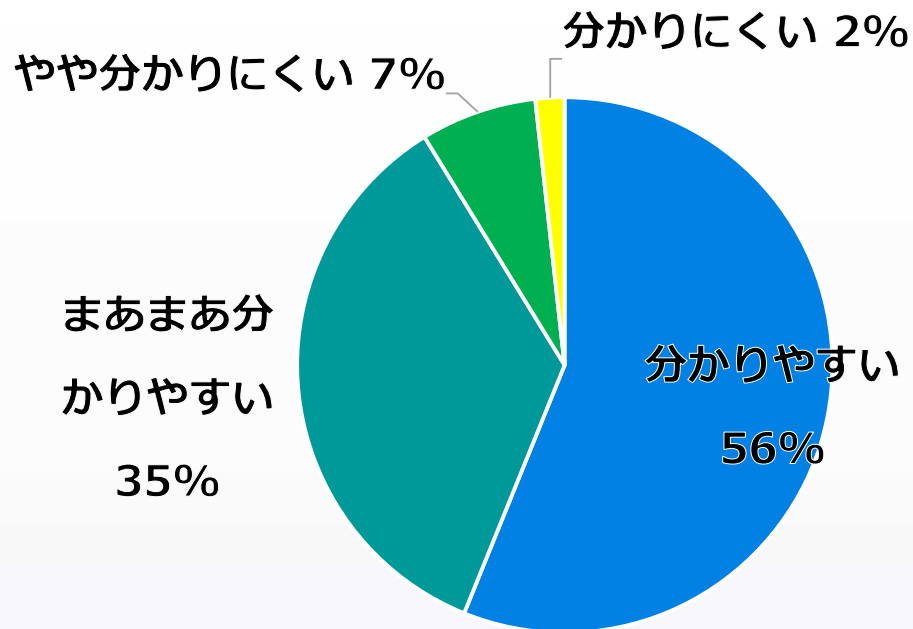
取組2 幅広い年代の市民の声を集める 広報とわだブラッシュアップ事業

アンケート調査比較 【広報紙面の分かりやすさ】

■町内会長対象



■お年玉企画



2-(1)「広報とわだ」

取組3 市政やまちづくりに
参画できる環境づくり
「市民の広場」にQRコードを掲載



◆広報とわだ「市民の広場」掲載のガイドライン より

「市民の広場」には、広報手段を持たない市内の各種団体・サークル等の活動を支援するために必要な会員募集、参加者募集や催しの案内等を掲載するものとする。

→【従前の運用】webサイト等で広報している団体は広報紙掲載の対象外としていた。

→【本年度からの運用】スマートフォン端末などからSNSなどを使って、誰もが手軽に周知できる時代になったことから、団体・サークルのSNSやwebサイトなどに誘導するQRコードを掲載できることとした。

2-(2) SNS等の活用

◆総務課で活用しているSNS等

- 広報紙のデジタル配信…スマートフォンアプリ「カタログポケット」「マチイロ」
- イベント等の告知等…「Facebook」「X」「駒らん情報メール」「市公式LINEアカウント」
※担当課からの投稿依頼に基づき、イベント等の告知を投稿
- イベント等の報告等…市ブログ「駒の里から」

※その他、各担当課で管理するSNSアカウントあり

2-(2) SNS等の活用

○広報紙のデジタル配信

◆「カタログポケット」

特徴 10カ国語で表記・読み上げできる。

紙面に掲載しきれなかった写真の掲載ができる。

記事内に掲載されたQRコードをタップ、またはクリックすることで、関連サイトを表示できる。

利用状況 令和5年度閲覧者数 月平均248件

最多月1,098件（令和6年2月号）

◆「マチイロ」

特徴 広報紙のPDFデータを掲載。

利用状況 登録者数1,120件（R6.7現在）

2-(2) SNS等の活用

○イベント等の告知など

◆「Facebook」

特徴 文章、画像、動画で情報を発信できる。

日本での登録者数はおおよそ2,600万人（R1時点：CNETJapan）

利用状況 年間投稿数 249件（R5年度）

フォロワー数 1,880人（R6.7現在）

2-(2) SNS等の活用

○イベント等の告知など

◆「X」

特徴 140文字以内の文章、画像、動画で情報を発信できる。

日本での登録者数はおおよそ6,658万人（R5時点）

利用状況 フォロワー数2,914人（R6.7現在）

短文投稿型のSNSであるため、投稿文に関連サイトのURLを掲載するなどして発信。

2-(2) SNS等の活用

○イベント等の報告など

◆ブログ…市ブログ「駒の里から」

特徴 日記形式のwebサイトである特徴を生かし、文章と画像を掲載し、既に実施したイベントや受賞・寄付などの情報発信を行う。

利用状況 年間投稿数 119件（R5）
1日平均閲覧者数107.5件（R6.6現在）

その他 記事を掲載した場合は、FacebookやXなど各SNSのフォロワーにも周知。

2-(3) クロスメディア化の推進

◆クロスメディア…一つの物事を複数のメディアを横断して周知する事

例1：新聞に概要を掲載し、詳しくはHPを見るよう誘導する。

例2：テレビCMを放映し、詳しくは翌日の折り込みチラシに掲載する。

◆市の取り組みの例

- ・ 広報に記事を掲載し、HPやSNSなどのQRコードを掲載する。
- ・ 「X」や「Facebook」に記事の冒頭文を掲載し、続きは「ブログ」を見るよう誘導する。

◆クロスメディアの利点…より多くの人により良く伝えることができる

- ・ 1つのメディアでは伝えきれない事を補い合いながら伝えられる。
- ・ 複数のメディアを通じて幅広い層の目に触れる可能性が高まる。

3. 事前質問への回答

Q1 予算はどのように使われたのか。内訳を教えてください。

A1 以下のとおり

- | | |
|-------------|-------------------------|
| • 広報印刷製本費 | 20,107千円 |
| • 委託料（運送業等） | 5,548千円…市から町内会等、各世帯へ |
| • 負担金（町内会） | 9,033千円…町内会から各世帯へ |
| • デジタル配信 | 429千円…「カタログポケット」 |
| • その他 | 2,924千円…Adobeソフト借り上げ ほか |
| • 合計 | 38,041千円 |

3. 事前質問への回答

Q2 スマートフォンで簡単に閲覧できるアプリに掲載したとあるが、それぞれのアプリでの閲覧数は分かるか。

A2 「カタログポケット」…月平均248件(R.5年度)

「マチイロ」…登録者数1,120件(R6.7現在)(閲覧者数は把握不可)

Q3 デジタル化は高齢者に不評・若者には好評という感じだが、アンケートはいずれも広報紙(紙媒体)についてのアンケートか。

A3 お見込みのとおり、広報媒体の柱である広報紙に対するアンケート調査。

3. 事前質問への回答

Q4 高齢者対策は何か取ったのか。

A4 近年情報量が増え、広報紙面に掲載する記事の件数の増加とともに、クロスメディア化を進めているが、高齢者向けの記事に関してはなるべく広報紙面で記事が完結するようにしている。

Q5 (アプリは利用していないので)アプリではどのような形態で紙面を見られるのか。例えばページごとか項目ごとか。

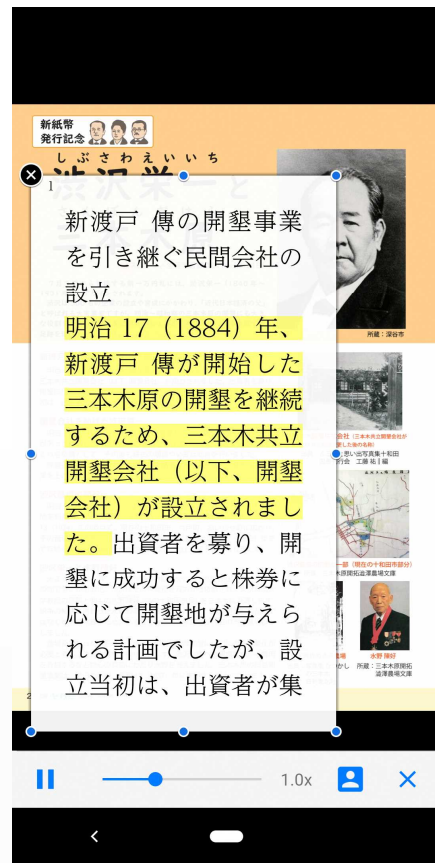
A5 市ホームページと「マチイロ」は、紙面をPDFにした画像がそのまま表示される。「カタログポケット」については次のとおり。



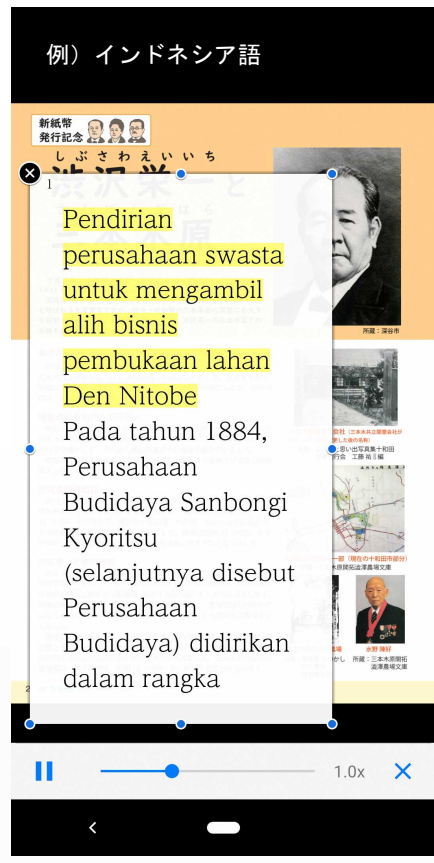
日本語をはじめ10カ国語から選べる



読みたい記事を選ぶ



文字が大きく表示され、自動音声で読み上げる



外国語を選択しても同様に表示・読み上げる

3. 事前質問への回答

Q6 見やすく分かりやすい紙面づくりに努めたが、評価が下がった理由は。

A6 クロスメディア化したことが高齢者には「わかりにくい」と感じられ、高齢の回答者が多い町内会長対象のアンケートでは評価が下がったと推測するが、「わかりにくい」は0%であることから、今後も高齢者に配慮した掲載の継続に努める。

Q7 今後どのような改善が必要と考えているのか。

A7 ・紙面においては、分かりやすい記号の選択や、ユニバーサルデザインフォントの使用等を進め、「広報とわだ」の読み易さの向上を図る。
・スマートフォンアプリやSNS、市HPでの情報のデジタル配信を継続し、各メディアとの連携を図ることで、市が発信する情報の認知度の向上に努める。

ご清聴ありがとうございました。

総務課広報男女参画係